

会合記録

() 内は出席者数

IAOR委員会	3月6日(木)(2)	会計幹事会	3月14日(金)(2)
編集委員会	3月7日(金)(8)	理事会	3月17日(月)(12)
研究普及委員会	3月7日(金)(7)	支部長会議	3月26日(水)(12)
表彰委員会	3月10日(月)(3)		



● 実施理論 ●

2月例会 2月16日(土), 13:00~16:30, 東京工業大学(大岡山キャンパス), 出席者15名

Schultz & Slevin (1975) の第12章, A Study of OR/MS Implementation as a Social Change Process について, 辻委員の担当により講読会を行なうとともに, 本例会より新たに講読することとした Doctor, Schultz & Slevin, The Implementation of Management Science, North-Holland, 1979, の第1章, Introduction: The Implementation Problem について, 太田委員の担当により講読会を行なった。

なお, 第2回分科会を, 2月2日(土), 13:00~16:00, 東京工業大学(長津田キャンパス)にて行ない, プロジェクトのフレームワークに関する川瀬委員の報告および討論を行なった。

3月例会 3月15日(土), 13:00~17:00, 東京工業大

学(大岡山キャンパス), 出席者15名

Schultz & Slevin (1975) の第13章, Operations Research Implementation and the Practice of Management を佐々木委員の担当により, また Doctor, Schultz and Slevin (1979) の第2章, The Context of OR/MS Implementation を川瀬委員の担当により, それぞれ講読を行なった。前者の論文は, OR適用の際の問題点を例示し, その適用のレベルを整理し, このレベルに対応した実施戦略を論じている。後者の論文は, OR/MSの実施に関する諸要因の分類を提示している。この分類は, OR/MSプロジェクトのプロファイルやポートフォリオ, 変革の管理, およびこれらを取り巻く環境・組織・管理・運用・資源となっており, それぞれにつき一層細目にわたる要因が提示されている。

なお, 第3回の分科会を, 3月1日(土), 13:30~17:30, 東京工業大学(長津田キャンパス)にて行ない, Successful Information System Development Projects (Mgmt. Sci. 1977) の文献講読(山田委員担当)および討論を行なった。この論文は, 情報システム開発を成功に導くユーザーとスペシャリスト間のコミュニケーションのパターンに関するコンティンジェンシイ要因および第3の関係者の仲介機能を論じている。

編集後記▶最近, あちこちの大学で, 従来の学問体系とは別に学際的領域をうめる形の大学院, さらに米国でみられるような実社会ですぐに役立つ教育を旨としたビジネススクール(経営大学院), 社会に出ている人たちにも開かれた形の大学や大学院コースなどいろいろな新しい形の試みがなされているようです。これまでの「大学のOR教育シリーズ」に加えて, 今月からのシリーズ

「エクステンションコース」は, ORに関係する分野で, 各大学で行なわれているニュータイプの大学院, スクール, コースなどを紹介していこうというものです。▶4月から学会事務局にピッカピカの新人職員寺本智恵さんを迎えました。容姿端麗, 聖心女子大出身の才女です。事務局も以前にもまして花やいでいる様子。編集・庶務を担当の予定です。期待しております。(MH)

オペレーションズ・リサーチ

昭和55年5月号 第25巻(新シリーズ第5巻) 5号 通巻233号

代表者 小林宏治

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 高橋 肇 郎

発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円(郵送料含) 年間予約購読料 7200円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社(563-2241), 明報社(571-2548)へ